



【第2回】 セネガルの理解に欠かせない「テランガ」と「平和さ」



皆様こんにちは。アフリカ商会の山田です。連載第2回目は、日本との共通点の多いセネガルへの理解を深めるために欠かせない「テランガ」の精神と「平和さ」について記します。（左の写真は本文とは無関係です。）

テランガの精神とは？

セネガルでは、困った時は当然のように助け合うという「テランガ」の精神が根付いています（日本の「おもてなし」「お互い様」の精神に似ています）。連載第1回で記したバスの話はその典型といえます。セネガルの人達は、自分の国をフランス語で「Le Pays de la Teranga（テランガの国）」と呼び、それをとても誇りに思っています。私が生活していて、セネガルの一番良い所だと感じるのは、このテランガの精神です。（余談ですが、バスでは乗車料金回収係にお金を払うための「お金リレー」が行われています。人々が互いに信頼し合っているセネガルだからこそなせる業です。）

そして重要なのは、この精神はセネガル人同士だけでなく、**外国人に対しても同様に考える**という事です。つまり、観光客はもちろんですが、ビジネスを行うために現地で生活・滞在・渡航する**外国人（＝日本人）**にとって**非常にありがたい文化**であると言えます。

加えて、セネガルでは青年海外協力隊で知られるJICA（フランス語読みで「ジカ」と発音します）の認知度および活動に対する評価は高く、**セネガル人は日本人へ良い印象を抱いてくれている**ようです。（2015年1月16日の在セネガル日本国大使 北原氏のスピーチによると、**現在セネガルは青年海外協力隊員数が世界最多の国**であるとの事です。また、今年には**セネガルへの協力隊派遣35周年**です。）



満員電車のように混雑するバス。

私自身のテランガ体験談

私自身の例を挙げますと、セネガルにきた当初、私は住居が見つからずに困っていました。そんな中偶然入ったインターネットカフェで出会ったセネガル人のSさんに相談をしたところ、なんとその翌日から数か月間、**Sさん家族と一緒に生活を**させていただきました。（次ページへ続く）



【この連載について】

日本企業のアフリカビジネス支援を行う筆者が、西アフリカの主要国セネガルについて記す連載。セネガルでのビジネスのヒントとなるさまざまな情報を提供する。



ホームステイ初日は、「昨日知り合った人の家いきなり行って本当に大丈夫なのだろうか？」と少し不安に思いましたが、Sさん家族はそんな私の不安を一瞬で消し去ってくれました。私をまるで昔から一緒に生活している家族の一員のようにとても暖かく迎え入れてくださったのです。

Sさん家族と皆で過ごす日々は、異文化に触れた驚きや発見の連続でとても刺激的で、「この素晴らしい経験を色々な方に伝えたい」という思いから、私は[ホームステイ先の紹介](#)を始める事にしました。

(写真は、私の友人が日本からセネガルへ到着後にSさん宅に来た時の様子です。左から順にSさんの奥さん、友人、Sさんのお子さん、Sさん。)

Le Pays en Paix (平和な国)

セネガルは1960年の独立以来紛争がなく、民主主義を確立して安定した西アフリカの大国という地位を築いてきました。セネガル人も、自国が平和で治安が良い事に誇りを持っています。セネガルの平和を形成している要因として、「宗教対立が起こりづらい」「飢餓に苦しむ人が出にくい」ということが挙げられます。

国民の94%以上がイスラム教徒で、それにキリスト教徒が続くのですが、まず**イスラム教徒が教義に対して寛容**です。女性は肌の露出の多い洋服を着ていますし、一部お酒を飲む人もいます。また、イスラム教徒でも教育のためにキリスト教徒の学校に通ったりする事もあり、イスラム教徒とキリスト教徒の仲も良いのです。

また、セネガルは統計データを見ると貧困率が46.7% (※) と高いですが、飢えに苦しんでいる人を見かける事はありませんし、お金に対してのギラギラとした欲望を目の当たりにすることもありません。これは、イスラム教徒の義務である喜捨に前述の「テラング」の精神が加わり、困窮者がいたら周囲の人が助けてくれるからのようです。

※参考：貧困プロフィール セネガル「図表 2 地方別貧困率、貧困ギャップ 2011年」
http://www.jica.go.jp/activities/issues/poverty/profile/ku57p/q00001cu1nq-att/sen_2013_Jreport.pdf

このようなセネガルの状況は、アフリカの一般的なイメージとは異なる部分が多いのではないのでしょうか。もちろん過信は禁物ですし現地の文化を尊重するという当たり前の意識は必要ですが、セネガルにおいては、**治安上のストレスをほとんど感じることなくビジネスや生活ができます。**



食事の様子。おかずは中心に置き、皆で譲り合い少しずつ食べる。





平和を愛し、人を思いやり助け合う--日本とセネガルは共通する部分が多い

世界に誇る平和憲法を有する日本、1960年の独立以来紛争と無縁なセネガル。おもてなしやお互い様の精神のある日本、テランガの精神のあるセネガル。平和を愛する心、人の優しさ、温かさという点で2国はとても似ています。

日本とセネガルの距離は約14,000kmもあり、地的にはとても遠い国といえます。しかし、その距離をものともせず、日本はセネガルにおいて、長年の援助や開発により十分存在感を発揮し、強固な信頼関係を有しています。その素地を活かす事で、今後はビジネス面でも2国間の関係性を深めていく事ができるかもしれません。

本日は以上です。最後までご覧いただきありがとうございました。少しでも西アフリカを身近に感じていただけたら誠に幸いです。

執筆者



山田 一雅（アフリカ商会 代表）

セネガルの首都ダカール在住。日本企業のアフリカビジネス支援（市場調査、営業代行、展示会出展代行、法人設立、視察アテンドなど）や、個人向けにホームステイ先の紹介を行っている。趣味は野球。千葉県出身（八千代市、佐倉市）。

【ホームページ】 <http://africa-shokai.jimdo.com/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/africa.shokai>

【連絡先】 africa.shokai@gmail.com

